

メッセージアウトライン ルカ 24:1～11、I コリント 15:12～22

「イエス・キリストの復活 死を打ち破る力」

イエスはゲッセマネの園で捕らえられ、ユダヤ人たちの不当な裁判によって十字架につけられ、ユダヤ人最高議会サンヘドリンの議員でひそかにイエスの弟子となっていたアリマタヤのヨセフによって岩をくりぬいて造った墓に葬られ、墓は大きな石でふたをされた。→マタイ 27:57～60

[1]「週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た」

「週の初めの日」とは安息日の次の日曜日のこと。朝早くまだ暗いうちに、イエスにつき従っていた女性たちがイエスのからだに香料を塗ろうとして墓にやって来た。これはイエスを慕う深い愛情、同情、尊敬の思いからの行動。それに比べて男の弟子たちは誰も来ていない。彼女たちは「マグダラのマリアとヨハンナとヤコブの母マリアとほかの女たち」(10)であった。マグダラのマリア…イエスによって七つの悪霊を追い出していただいた。→ルカ 8:2 ヨハンナ…ヘロデ(アンテパス)王の執事クーザの妻→ルカ 8:3 ヤコブの母マリア…十二弟子の一人アルパヨの子ヤコブの母と思われる。→マタイ 10:3 十二弟子の中にもう一人ヤコブがいるが彼は同じく弟子のヨハネの兄であり、彼らはゼベダイの子と呼ばれている。→マタイ 10:2 そして彼らの母はサロメという名前であり、やはりこの時マグダラのマリアと共に墓に来ていた。→マタイ 27:56、マルコ 16:1(ルカの福音書では10節の「ほかの女たち」の中に彼女も含まれていたと思われる)

[2-3]「見ると、石が墓からわきに転がされていた。そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった」

マタイの福音書によると、この時、大きな石は天から降りて来た御使いによって転

がされ、御使いがその上にすわったので大きな地震が起こり、墓の番をしていたローマの番兵たちは御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がった。→マタイ28:2-4 この御使いは二人であった。→ルカ 24:4

[4-8] 御使いはマリアたちに主が死よりよみがえられたことを告げ、ガリラヤにおられたころ、イエスがお話になっておられたように「人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われた」(マタイ 16:21,17:22~23,20:18~19)ことを教えた。それで彼女たちはイエスのことばを思い出した。

[9-11] 彼女たちは墓から戻って、十一弟子(十二弟子のうちイスカリオテのユダはイエスを裏切り、自死した)とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告したが、彼らにはこの話しがたわごとと思われたので彼女たちを信じなかった。

三年もの間、イエスと寝食を共にし、多くのことを教えられ、力あるわざを見てきたのに、イエスの死からの復活が信じられない。これが彼らの現実の姿。それゆえイエスの復活を聞いて信じられるということは全くの神の恵みなのである。

イエス・キリストの死よりの復活は福音の根底をなすものである。

このイエスの復活に関連して→ I コリント 15:12~22

[I コリント 15:12]「ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか」

コリント教会はパウロの福音伝道によって立てられた教会であるが、そこにはギリシヤ哲学の影響からか「死者の復活はない」と主張する者たちがいた。

[13-14]「もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります」

[15-17]「私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます」

[18]「そうだとしたら、キリストにあつて眠つた者たちは、滅んでしまったことになりま

[19]「もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です」

ここまでの論点をまとめると、

- ① もしもキリストが死よりよみがえらなかつたならば、私たちの宣べ伝える福音は空しく、私たちは神がキリストをよみがえらせたと主張する偽証人となる。(13~16)
- ② 私たちの信仰は空しく(単なる気休め)、私たちは今もなお罪の中にいることになる。(17)
- ③ キリストにあつて(信じて)眠つた者(死んだ者)は滅んでしまったことになる。(18) 罪の報酬(受けるべき罰)は死(滅び)。→ローマ 6:23
- ④ クリスチャンはすべての人の中で一番哀れな者となる。(19)

[20]「しかし、今やキリストは、眠つた者の初穂として死者の中からよみがえられました」

「初穂」とはまもなくできる全収穫の最初のものであり、後に続くものの原型である。

イエスが眠つた者の初穂として死者の中からよみがえられたということは、イエスを信じて死んでいった者たちも復活することができるということである。

[21-22]「死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです」

死はアダムが神の前に罪を犯すことによって入ってきた。→創世記 3 章

しかし、死に打ち勝ち、死を打ち破る、死よりの復活は救い主キリストによって与えられる。ここに大いなる希望がある。→ローマ6:23b、ヨハネ 3:16、I コリント 15:23、I テサロニケ 4:13~17

イースターは私たちの主イエス・キリストの死よりの復活を記念し祝う日である。主イエスは私たちの罪の贖いを十字架の死によって成し遂げ、ご自身が罪の呪いである死を打ち破って復活されたことにより、ご自身が死より強いお方であり、真の救い主であることを弟子たちに示された。

主イエス・キリストを救い主と信じる者は誰でも復活の希望が与えられる。私たちもこのイースターの日を心から感謝し、復活の力に生かされてこの地上の歩みを進めて行きたい。